

新年度突入直前の 3 月 27 日 (土)。大阪市内で松塾主催、大阪 OLC 協力による「読図指導法講習会(勉強会)」が開催された。講習会には「新人指導の質の向上を、そしてクラブ活動の活性化を」との目的意識を持つ関係者 14 人が出席。5 時間に渡るプログラムを消化しつつ、モチベーションとスキルを高め合う様子が窺えた。読者の方も、この記事を通じてその空気に触れて欲しい。



渾身の力を込めてフィニッシュに向かう
道場主・松澤俊行
アジア選手権ミドル競技2010年5月2日

高まる危機感、強まる連帯感

近年、学生競技者の減少が目立ち、先行きが危ぶまれていた関西地区では、次第に学生支援の気運が盛り上がっていました。関係者間の情報交換や議論が重ねられ、2010 年度は地域クラブによる学生クラブ支援の動きも本格化しています。

関西オリエンテーリング界とは浅からぬ縁を持つ筆者も何らかの形で協力を、と考え「読図指導法講習会」の企画を持ち込むこととしました。提案したプログラム内容は下記のもので(要項原稿からの抜粋。)

<内容の予告>

- ・未体験者、初心者から見たオリエンテーリングの魅力
- ・オリエンテーリングの競技特性、「道具」である O マップの特徴
- ・O マップを読むために必要な知識と準備
- ・初心者を競技者にするための実地練習の方法
- ・競技者を育てる組織作り

上記テーマについて、講師からの講義と、ドリルへの解答等、演習を交えながらオリエンテーリングの魅力を再発見し、上達法への理解を深めていくことを狙っています。(今回は屋外の実技は行いませんが、実地での指導にも結び付けられる机上のシミュレーションを実施します。)

開催の決定と広報の開始は3月中旬。募集期間は実質僅か 1 週間であったにも関わらず、関係者の心に訴えるものがあつたか、14 人の方々から申し込みがありました。中には大学院生含めて 5 人の学生も含まれており、「時宜を得て、効果が上がる機会となるに違いない」との予感がありました。内容は、参加者層によって多少アレンジする予定でしたが、14 人の経歴や競技経験年数を見ると「良いバランス」と思われ、当初の設定通りにプログラムを進行していくこととしました。以下、プログラムの一部を紹介しましょう。

オリエンテーリングの魅力を再発見する

まず初めに、次の課題を提示しました。

<「オリエンテーリングの魅力」を考える>

- ・1 分以内で「オリエンテーリングの競技特

性」を魅力的に伝えること。

- ・「オリエンテーリング体験会」の参加希望者向けの導入トークを想定する。

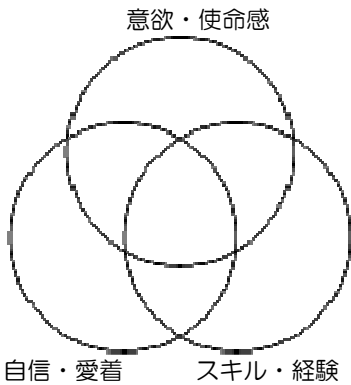
新人勧誘に対応する、実践(実戦)的な課題です。注意していただいたのは、伝える魅力を「オリエンテーリングの競技特性」に関するものに絞ること。例えば、「しばしばレクや飲み会があって楽しい」といったトーク(*)も良いでしょうけれども、それは「クラブの魅力」を伝えられても、メインの活動に対する理解の促進にはつながりません。ここではオリエンテーリングというスポーツそのものの「品質の良さ」に目を向けてもらい、胸を張って売り込んでもらいました。課題を通じて自分自身がオリエンテーリングの魅力を再発見し、活動を楽しむことにつながってもらいたいという意図も含んでいました。

読者の皆さんも、この課題に対してどう答えるか、是非イメージしてみてください。当日の参加者からは「なるほど」「さすが」と思わせる PR トークが続出しました。一つだけ例を示すと「湿地に足をとられながら走る、という新しくて非日常的な経験ができる」というコメントがありました。言い方を間違えればマイナスにしかならないような状況を、うまく魅力ととらえ直して伝えている良い見本だと思います。もちろん、本人が本気でそう考えているという裏付けがあるからこそ、聞く側の心にも響くのです。

* 大学入学後にいろいろなクラブから勧誘を受けた経験がある方は分かると思いますが、これは、どんな学生のクラブ・サークルでも PR する点です。それだけに、言っているその人が「この人と一緒に遊んだら(飲んだら)楽しいだろうなあ」というオーラ(?)を放っていない限り、決定打とはなり得ないでしょう。やはり、まず「メインの活動」の魅力で勝負して欲しいものです。

指導は先輩の務め

会の中で、「指導者に必要とされる要素」として以下の図を示しました。



言うまでもなく、多くを持っている指導者、図中で複数の要素が重なる部分に位置している指導者ほど良い指導者ということになります。実際は、どれか一つの要素を持っていれば他の要素も引き上げられ、持ち合わせやすくなりますので、「どれも持っている指導者」か「どれも持っていない指導者」に二極化していると考えられます。

クラブ活動では、「全ての先輩が、後輩に対する指導者」です。その指導者が上記の二極に分かれているわけですから、クラブは「新人が、入部直後からいろいろ教えてもらえるクラブ」と「卒業まで何も教えてもらえないクラブ」に二極化している、ということでもあります。

会の中の講師からのプレゼンテーションでは、次のような2つの図を対比させて示しました。

＜学生クラブ部員の理想の習熟ステップ＞

- 初心者(入部後 1~3ヶ月 Nクラス)
- ↓
- 初級者(1年目 Bクラス)
- ↓
- 中級者(1~3年目 Aクラス)
- ↓
- 上級者(2~4年目 Eクラス)

＜指導を受けられない学生クラブ員＞

- 初心者の1年生
- ↓
- 初級者の2年生
- ↓
- 初級者の3年生
- ↓
- 初級者の4年生

補足の解説代わりに、2009年8月号掲載記事(オリエンテーリング道場第54回「初心を活かす・初心に応える」)に記した一節を再掲しておきます。

初心者時代に基礎基本事項を知り、習得に着手する機会が得られなかったとは要するに「指導を受ける環境に恵まれなかった」ということです。環境に恵まれない競技者は、たとえ上達を

志したとしても「初心者→初中級者→熟練者」というステップを踏めません。時間だけが過ぎていきます。時間の経過に伴って初心者の強みである「純粋さ」や「熱っぽさ」、「謙虚さ」が失われていくのが普通であり、待っているのは「初心者→初心を忘れた非熟練者」というステップです。



松澤、アジア選手権スプリントを駆ける。(2010年5月1日)

落とし穴を回避する

講習会では使命感や意欲を持ち合わせる関係者の方々に、指導スキルや自信を身に付けるためのヒントをいろいろ紹介し、練習メニューの設定演習などにも取り組んでいただきました。演習内容に興味のある方は、是非今後筆者が講師を務める講習会に参加する、筆者をクラブの臨時コーチに招く、筆者の主宰する「松塾」に入塾するなどしてください。(はい、宣伝です。)ここでは、この記事のまとめとして、講習会参加者の方に過去の活動を省みていただくために示した「初心者指導の落とし穴」チェックシート(9項目)の内

容に、簡単な解説を加えて列記しておきましょう。

☆ 初心者指導の落とし穴①

「初回の説明だけして放置していないか?」放置は「虐待」の一種である。してはならない。

解説:

初心者の強みは好奇心や吸収力の源である「初心」を持っていること。しかし、初心者も、(たとえ技術的には足踏み状態でも)時間の経過と共に初心を失う。早い段階で一通りのことを学ばないと、吸収効率は著しく悪くなる。初心者時代は、ある意味タイムリミットが最も厳しい期間と考えよう。

☆ 初心者指導の落とし穴②

「意欲、自信、スキルをいずれも持たない先輩が指導していないか?」クラブ内で指導体制の見直しを。

解説:

指導者には(競技者もだが)、「意欲」と「自信」と「スキル」が必要。どれか一つを持てば、他の要素も引き上げられやすくなる。「先輩」になる前に、まずどれか一つを持とう。

☆ 初心者指導の落とし穴③

「いきなり複雑過ぎる、専門的過ぎる課題を求めているか?」

まずは単純なことから始める。

解説:

いくつもの課題が含まれる、要求が複雑で自分の力量を大きく超えたコースを走ると、苦戦するだけで「力を発揮して課題をクリアした」という充実感が得られにくく、興味も失いやすくなってしまいます。頻繁に、継続的に「達成の喜び」を味わってもらおう。

☆ 初心者指導の落とし穴④

「一回の練習にあまりに多くの要素を詰め込んでいないか?」

テーマを絞る、段階を踏む。

解説:

優れた競技者は、練習でコースを走る際にも自らメインの課題を設定しながら走るし、指導する側に回って練習コースを組む時にもテーマを持たせて、走る側に特定の課題の解決を促す。常に「練習の狙い」を意識しよう。

☆ 初心者指導の落とし穴⑤

「口頭だけで理解度をチェックしていないか?」

地図を指で辿る、ルートを書き込む等すると、誤解に気付きやすくなる。

解説:

プレイ場面を見ている、見られているわけではないオリエンテーリングでは、口頭のコミュニケーションでプレイを振り返っても、話し手と聞き手の間に齟齬が生じやすい。誤解を乗り越える(「やり過ごす」ではなく)関係を築こう。

☆ 初心者指導の落とし穴⑥

「練習に『試合』の『競技性』を持ち込み過ぎていないか?」
練習のコースは、初見である必要も、課題が多様である必要もない。

解説:

練習は試合を意識して行うべきではあるが、両者を同じ物と考える必要はない。試合で力を発揮できるように常に準備しておくのが練習である。試合ほどの手間を掛けずに、頻繁に行おう。

☆ 初心者指導の落とし穴⑦

「初心者を一律にくくっていないか?」
人により、問題点は様々。

解説:

同じ指導を受けた、同じ過程を経たとしても、到達する地点は異なる。各自の「今いる地点」を把握してその後の行動を決めることが大事である。指導者は、「未知の情報や新しい知識の提供」もさることながら、「チェックと評価」が主な務めと考えよう。

☆ 初心者指導の落とし穴⑧

「新人が定着しないこと」を全て失敗と考えていないか?
お互いに選び、選ばれている。ポリシーが伝わる活動を。

解説:

オリエンテーリングに限らずどんなスポーツも「みんなのスポーツ」であって欲しいが、現実にはそうはいかない。ある人がのめり込むスポーツに、ある人が見向きもしない、ということはあって当然である。「みんなのスポーツ」であろうとしたら、そのスポーツの特性をぼかすか、時と場合に応じて捻じ曲げるしかないだろう。「みんなのスポーツ」(あるいは「みんなのクラブ」)であることを諦め、対象層を明確にした方が、人材の勧誘や育成もしやすい。狙った対象層に強く訴求する活動をしよう。

☆ 初心者指導の落とし穴⑨

「大会の『初心者説明』と同じように考えていないか?」
後輩は「お客さん」ではなく、いわ

ば「教え子」である。

解説:

大会の初心者説明は、その後の1時間前後を何とか楽しんでもらうための最低限の説明しかされない。(そもそも、スポーツ大会に初心者が出場できること自体特殊である。)何事においても、技術を学びたいければ、それなりの時間や金銭を投資する必要があるし、「そうしたい」と考える新人もいる。初心者の学習意欲を引き出し、その意欲に応えよう。

参加者の感想

講習会の終盤には、下記のような課題にも取り組みました。

未体験者の関心を惹くため、初心者が上達してクラブに定着するためにクラブ内にどのような「仕組み」や「仕掛け」が必要か考えよ。

会場使用のタイムリミットの関係上、筆者を交えての本格的な意見交換は行えませんでした。この課題は、参加者間の議論を深める一助になったと思われました。早速、講習会後の「食事会」でも話が盛り上がったようです。

講習会後のアンケートの記述内容をいくつか抜粋します。

- ・そもそも自分たちが活動を楽しんで、楽しいクラブだという印象をもってもらい、その上で競技自体の魅力を伝えていくことが大切だと感じました。
- ・「練習」と「試合」の区別が必要だと分かった。
- ・体系的に指導法を復習できて良かった。
- ・何でもやってみるに限るということが分かり、自信が付きました。

筆者が講習会の5時間で行おうとしたことはひとまず「成功」だったと評価できます。とはいえ、「本当の成果」はこれから問われることになります。関西オリエンテーリング界の動向から、しばらく目が離せません。

(松澤俊行)



アジア選手権リレー種目男子で日本チームを優勝へと導いた道場主・松澤俊行(中央)チームメイトの小泉(右)、山口(左ウェア)とともに表彰台に登る。(2010年5月5日)



高く掲げた日の丸と道場主(中央)(アジア選手権リレー種目男子)

<松澤俊行プロフィール>

1972年静岡県生まれ。東北大学に入学した1991年からオリエンテーリングを始める。国内の大会での優勝、国際大会への出場を多数経験。4月の代表選考会ミドルレースで1位(加藤弘之選手と同タイム)となり、9回目の世界選手権日本代表チーム入りを決めた。19年間磨いた技術をひっさげて、この8月、ノルウェーの難トレインに挑む。

「松塾」等、松澤俊行の活動に関するお問い合わせは mazzawa<at>aol.com まで。